

4 コミュニケーションとしてのライティング

コミュニケーションという語を聞いて、「会話」や「スピーキング」などを連想する人も多いであろう。しかし、『大辞林（第三版）』には、コミュニケーションは「人間が互いに意思・感情・思考を伝達し合うこと」と定義づけられ、さらに「言語・文字その他視覚・聴覚に訴える身振り・表情・声などの手段によって行う」（松村編，2006，p. 946）と記されている（下線は筆者による）。ここからも明らかなように、コミュニケーションは音声だけではなく、文字を用いても行われる。つまり、スピーキングと同様に、ライティングもコミュニケーションの手段なのである。そこで以下では、ライティングによるコミュニケーションを行う上で考慮されるべき、いくつかの要因を見ていくことにする。

Hyland (2014) は、ライティングによるコミュニケーションには、目的 (purpose)、状況 (context) 及び読み手 (audience) が常に関わってくるとしている。まずライティングにおける目的の例としては、「ある人物が過去に経験した事柄について述べる」や「ある事柄について論理的に見解を述べる」などが考えられる。また、これらの目的で書かれた文章としては、それぞれ「物語文」と「意見文」が挙げられる。このように、書き手の目的に応じて文章の種類は変わってくる。さらに、「物語文」や「意見文」のように文章の種類が異なるということは、相互に異なる特徴が存在することを意味する。例えば「物語文」では、時間的配列に基づいてパラグラフが展開される。つまり、起こった出来事が、時間の流れに沿って順番に述べられていくということである。一方「意見文」は、序論、本論、結論という展開になるのが一般的である。具体的には、序論で筆者の意見が示され、本論でその意見が支持され、結論でまとめが行われるという形になる。このように、書き手の目的によって分けられ、それぞれに固有の特徴を有する「物語文」や「意見文」などの分類を**ジャンル (genre)** と呼ぶ。個々のジャンルには、使用される語彙や文法項目、文章構成などにおいて、他のジャンルとは異なる特徴が存在する。

一方、適切なコミュニケーションを行うためには、状況を理解することも不可欠である。ライティングによるコミュニケーションは、様々な状況で行われる。例えば、学生と教員間におけるメールのやり取りでは、言葉遣いに気を配るだけではなく、各々の立場をわきまえたやり取りをすることが必要である。また、他人に何かを依頼する場合でも、相手に掛かる負担の大きさを考慮した上で、使用する表現を変えなければならない。例えば、友人にお金を借りる際には、借りる

額の大きさに応じて使用する表現を変える必要がある。このような、状況に応じて使い分けられる言語の変種を**言語使用域 (register)**と呼び、この選択を誤るとコミュニケーションに支障をきたすことになる。

目的と状況を考慮することに加え、ライティングにより適切にコミュニケーションを行うためには、読み手 (audience) を意識して文章を作成することが必要である。なぜなら、ライティングには必ず読み手が存在しているからである。特に、職業や専門分野など、読み手が所属するコミュニティを想定することで、適切な文章を作成することができる。これは、読み手が特定のコミュニティの中で積み上げてきた知識や経験に基づき、文章の意味を理解するからである。また Hinds (1987) によると、日本語では、効果的なコミュニケーションを行うための責任が読み手にあるが (reader responsibility)、英語ではそれが書き手にあるという (writer responsibility)。つまり、日本語では、書かれた内容が適切に理解されるために読み手の努力が必要とされるが、英語では、読み手に理解しやすい文章を作成することが書き手に求められる。そのため、読み手を意識せずに英語の文章を作成してしまうと、書かれた内容が十分に読み手に理解されなくなってしまう。したがって、英語でライティングを行う際には、日本語との違いを十分に意識することが必要となる。

以上のように、ライティングにより適切なコミュニケーションを行うためには、様々な要因を考慮しなければならない。このことは、ライティングが言葉を文字で表現するというだけの単純な活動とは大きく異なることを意味している (White & Arndt, 1991)。また、ライティングは「他の3技能と比べても複雑な要因が多い技能」(小室, 2001, p. 7) である。そのため、ライティング技能を習得するためには、多くの時間と労力を費やす必要がある。さらに、自然に獲得されるスピーキングとは異なり、ライティングは母語においてさえ、正式な作文教育を受けなければ身に付けることができない。したがって、外国語である英語によるライティング能力の向上には、教室で行われる指導が非常に重要となる (Grape & Kaplan, 1996)。このことを踏まえると、適切なライティング指導を行うことが、学校の英語教育においても重要な課題となるであろう。

(上原 岳)